広くて小さい世界

ンバ　真陽佳

タイの学生との交流を通じて、私は世界が広いようでとても狭いということを実感した。私は『相互理解』を目指す国際交流についてのエッセイを書き最優秀賞を受賞したので、タイの学生たちとの交流をとても楽しみに心待ちにしていた。
タイ語が話せない私と日本語が話せないタイの学生のハ゛テ゛ィとは英語で会話をした。彼らは、私が思っていた以上に日本の文化、言語、食べ物などに興味を持っていて、驚きと喜びでいっぱいだった。私自身も、タイの学生の中で最も仲良くなったトゥアプさんからタイの踊り、文字、食べ物や音楽などたくさんのことを学ぶことができた。
会ったばかりだったが、まるで昔からの知り合いのように私達はすぐ仲が良くなった。途上国、新興国、先進国。生まれた国によって、大きく文化や考えは異なるかもしれないが、自分と同じような若者が、毎日違う国で同じようなことに興味を持ち、同じようなことを考えて暮らしているということを知ることはとても重要である。
IT技術の発達で世界はどんどん身近になった現在、日本に帰国した今もトゥアプさんとはSNSで話している。今や、SNSの発達で世界はとても近くなり、これからもどんどんボーダレスな社会へと近づいていく中、相互理解を深め、国や言語の壁は取り払い、おなじとの出会いは私にとって地球上の人々が繋がっていることを感じさせてくれた。
世界は広大でありながらも、私たちは互いに近い存在であるという新しい視野を与えてくれた。一対一の人として実際関わり合って関係を築いて行く必要か゛あると感し゛、やはり相互理解は相手や相手の国を知ることが大事だと再度実感した。
交流時間は五日間での研修のたったの四時間だったが、そのトゥアプさんとのたったの4時間が私にとってこれほど大切な思い出になるとは、タイへ行く前の私は想像もしなかっただろう。最終日、トゥアプさんと彼の友人たちは、私たちがタイを出発する夜に空港まで見送りに来てくれた。最後に彼らとお別れするときは『来てよかった、また絶対タイに来よう』と思った。